

令和 7 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470101336	事業の開始年月日	平成18年1月1日
		指定年月日	平成18年1月1日
法人名	有限会社 福寿の里		
事業所名	福寿の里グループホーム		
所在地	(〒230-0003) 神奈川県横浜市鶴見区尻手		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和8年1月20日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1：食事を楽しんで頂けるよう季節の食材を多く使用し、出来る限り手作りで提供している。
2：利用者の誕生日には赤飯を炊いてお祝いしている。また、記念写真を撮っている。
3：家庭菜園をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和8年2月6日	評価機関 評価決定日	令和8年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇理念「安心できる日常生活」の実践 ・管理者と准看護師が常駐し、職員と連携して情報を共有し、連絡の迅速化で手厚くケアに取り組み、利用者や家族、職員の安心に繋がっている。 ◇オンライン動画での研修の充実 ・研修年間計画を作成し、職員は介護に必要な研修をオンライン動画で受講している。受講後に内容の理解度を確認し、不足なところは再度見直したり、管理者が指導して補っている。 ・都合に合わせて受講できるため、職員が時間的に余裕ができ、散歩に出かける回数が増えるなどに繋がっている。 ◇食事の楽しみへの支援 ・献立と食材は業者に依頼しているが、職員が利用者の要望に沿って、刺身や季節の果物等を加え、手作りの食事を提供している。正月のおせちやひなまつりのちらし寿司、土用の丑の日のうなぎ等の行事食に加え、利用者の要望で寿司やラーメンを提供し、利用者の楽しみとなっている。 【事業所が工夫している点】 ◇「体験入居」を通して、入居後の安心した生活を支援 ・入居希望者に対して2泊3日の体験利用を行い、利用者の状態を見ながら要望や不安を聞き、安心して生活できるように支援し、利用者は納得して入居している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	福寿の里グループホーム
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し入職時に管理者より内容共有できるよう説明している。また、利用者を自分の親や祖父母のように考え安心して生活できるよう全職員で取り組み実践している。	・理念「安心できる日常生活・支え合い共存できる生活」をリビングに掲示し、常に意識できるようにしている。職員は利用者のその日の状況を良く観察して見極め、できる事をやってもらうなど、利用者寄り添ったケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域との関りを維持している。また、運営推進会議で活動状況報告をしている。	・自治会に加入し、自治会の行事、花見やお祭り、防災訓練に参加し、地域とのつながりを継続している。 ・散歩時に近隣の人とあいさつを交わしている。 ・ネイルのボランティアの受け入れを予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献できるよう努力しているが実践には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に防災・感染症関連について話が出ており、その都度情報共有している。	・運営推進会議は自治会防犯部、民生委員、包括支援センター職員、利用者家族の参加で行っている。 ・活動状況報告、研修報告等を行っている。民生委員から防訓練災について質問があり、地域の協力体制を得ている。	・今年度は運営推進会議は参加者の都合もあり、年4回の開催となっています。運営推進会議を2か月毎に開催されることが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて区や地域包括センターに相談している。	・運営推進会議録を鶴見区高齢福祉会課に郵送している。 ・鶴見区の生活支援課に生活保護利用者の手続きなどを相談している。 ・グループホーム連絡協議会に加入し、ブロック会で情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	動画研修を取り入れ行っている。また、定期的に委員会を開催し拘束のない介護ができるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束適正化委員会を年4回開催し、議事録を回覧している。 ・職員は年2回、身体拘束排除の動画研修を受け、受講後に理解度を確認し、不足なところは再度見直したり、管理者が指導して補い、身体を拘束をしないケアに取り組んでいる。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画研修を取り入れ行っている。虐待のない生活支援ができるよう全職員で注意し合っている。また、管理者より指導している。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回高齢者虐待防止に関する研修を動画受講している。 ・職員は県の虐待自己チェックシートを活用して点検している。 ・不適切な言葉がけや態度があった場合、管理者やその日のリーダー、職員同士がその場で注意している。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が交流会などに参加し情報交換している。また、情報共有できるよう内部研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内で面談し契約書の読み合わせをしている。解らない事は、その都度説明し理解・納得して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞いている。また、利用者の近況を報告している。2ヶ月毎に利用者の状況報告を郵送している。施設内に意見箱を設置し意見や要望があれば検討し運営に反映できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からは面会時や介護計画の更新時に意見や要望を聞いている。意見箱に職員の態度についての苦情があったときは職員と話し合った。 ・利用者の意見や要望は、日ごろの会話や表情、行動からくみ取り、ケアに反映している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内で意見や提案を聞き、その都度検討し運営に反映できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は日常の業務の中で、職員の意見や提案を聞き、その都度検討し、運営に反映している。職員間の意見の違いを話し合うこともある。 ・職員のレクレーションの提案には予算を付け、利用者に変化のある生活を提供している。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を聞き勤務表を作成している。また、職員個々の状況を見ながら職場環境作りを心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の勤務年数、資格取得、職員の頑張り具合で給料に反映する仕組みがある。介護福祉士等の資格取得には費用の半分を負担し、資格取得者には手当を支給している。 ・職員は健康診断を年2回受けている。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に担当者を決め支援統一できるよう指導している。また、日々の業務内で准看護師がケアの実践を指導している。	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員には、担当者を決めて3か月間ケアの技術を指導している。 ・日勤職員をその日のリーダーとすることで、責任感を持てるようにしている。 ・年間研修計画を立て、職員は動画で受講し、ケアの知識を得ている。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が交流会などに参加し情報交換し職員全員で情報共有できるよう内部研修を実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に向けて2泊3日の体験利用をして頂き、利用者の状態を看ながら要望や不安を聞き安心して生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族からの要望や困っている事を聞き希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験利用時に出来る事・出来ない事を見極め、利用者や家族の要望に沿った計画を作成し実践できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を念頭に置き利用者と職員が共有できる時間を多く設け、良い関係が築けるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来る回数を増やして頂けるよう家族に依頼している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できる事を家族から伝えて頂いている。また、外出支援は家族に依頼している。	<ul style="list-style-type: none"> 入居時に利用者の一人ひとりに人間関係や馴染みの場所を聞き、把握し支援している。 家族の訪問時は居室に通し、その日のリーダーが利用者の近況を伝えている。知人からの年賀状や手紙は家族の許可を得て取り次いでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活支援を通して利用者同士の連帯感などが生まれるよう橋渡しを行い、お互いに支え合えるような環境作りを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の連絡は殆どない。必要に応じて電話での対応をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から利用者の思いや意向の把握に努めている。意思表示できない利用者に対しては、表情や仕草から意向をくみ取り職員全員で検討し対応している。	・職員は入浴や散歩の支援時に、利用者の思いや意向の把握に努めている。テレビを見て「あれ食べたい」というつぶやきも聞いている。 ・把握した情報は管理者や准看護師に伝え、業務日誌、個人記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者や家族からの情報を基に、これまでの生活状況やサービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活支援を通して利用者の出来る事・出来ない事を見極め、職員全員が情報共有し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を基に介護計画を作成している。短期3ヶ月・長期6ヶ月・状況変化時に見直しを行っている。必要に応じて主治医に相談し意見を聞いている。	・担当者会議で、担当職員、准看護師、管理者、ケアマネジャーが話し合い、利用者や家族の要望およびモニタリング結果から、介護計画を作成している。 ・モニタリングは担当職員が3か月ごとに専用紙に記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項のみを記録に残し職員全員で情報共有する事により介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向や要望・その時々ニーズに合わせた支援が出来るよう話し合いを行い、職員全員で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが協働出来るまでには至っていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い利用者や家族の意向に沿えるよう支援している。往診医（内科・歯科）の情報を提供し希望に応じて往診依頼している。往診以外は家族に付き添いを依頼し受診して頂いている。緊急時には職員が対応している。	・利用者全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。協力医は24時間対応している。 ・緊急時には、事業所常駐の准看護師が指示を出している。 ・歯科医は希望に応じて訪問してくれる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の准看護師が利用者の健康管理をしている。必要に応じて家族や主治医と連絡を取り往診依頼や受診依頼している。緊急時には病院まで付き添っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院できる医療機関との業務委託契約は出来ているが、殆ど入院する事なく経過しており医療機関との協働が出来るまでには至っていない。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアマニュアルを基に内部研修を行っている。利用者や家族の意向を尊重し出来る事・出来ない事を説明し、主治医・家族と話し合い方針を決め職員全員で情報共有し終末期に向けたケアを実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期に向けた事業所指針を、入居時に利用者と家族に説明している。利用者の思いは時々確認して家族とも共有している。 ・看取りの研修は年1回行っている。 ・看取りの際、夜間は管理者と准看護師が交代で付き添っている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に施設内で研修を行っているが定期的な訓練の実施には至っていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は行っている。災害時には自治会防犯部の協力を得られるよう連絡を取り合っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPを策定し、研修と訓練、見直しを行っている。年2回の訓練では、停電を想定して電気自動車を電源として利用したり、カセットコンロでごはんを焚いている。 ・水と缶詰等の食糧を5日分備蓄し、一覧表で消費期限を管理している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々への声かけを工夫しながら対応している。利用者への対応や声かけで気になる事があれば職員間で注意しあったり、管理者から注意・指導をしている。	・利用者への声かけは「さん付け」としている。職員は利用者には家族のように思われるようケアに努めているが、馴れ馴れしすぎる言葉や態度にならないよう注意している。 ・職員間で利用者の話をするときには部屋番号を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員が共有できる時間を多くもち、日々の会話の中から利用者の希望を聞き、自己決定出来るような環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	飲水食事時・入浴介助時以外は利用者が自由に過ごせるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿えるよう家族と話し合い支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を多く使い手作りの食事を提供している。嫌いな食べ物は細かく刻むなどして調理し提供している。食事準備や後片付けを一緒にするよう声かけしているが拒否される事が多い。	・業者の献立と食材に生ものや果物を加えて、職員が手作りしている。 ・正月のおせちやひなまつりのちらし寿司、土用の丑の日のうなぎ等の季節ものや、利用者の要望で寿司やラーメンを提供している。 ・屋上で野菜を育て、利用者は水やりや収穫を手伝っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定し利用者個々にあった食事量・飲水量を提供し体重のコントロールをしている。また、刻み食・ミキサー食・とろみ食にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診医の指導により利用者個々にあった口腔ケアが出来るよう支援している。また、口腔用ウェットティッシュやスポンジブラシを使用する事もある。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ対応の利用者には排泄チェック表を使用している。その他の利用者には定期的にトイレ誘導し自立を促している。また、飲水食事前と就寝時には必ずトイレに行くよう声かけしている。	・利用者がトイレでの排泄を続けられるよう一人ひとりに合った支援をしている。自立している利用者の場合、見守りと確認のみとしている。 ・夜間は、車いす利用者はポータブルトイレを使用し、他の利用者の場合はトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜・水分を摂れるよう工夫しながら対応している。利用者個々にあった運動支援を行っている。必要に応じて主治医に相談し緩下剤の処方をして頂き調節している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人で入浴出来る利用者がないため、利用者個々にあった支援は出来ていない。入浴介助は、週2回（夏場3回）実施している。入浴日以外は足浴や清拭で対応している。	・座位が保てない利用者はシャワー浴とし、他の利用者は湯舟に浸かっている。 ・利用者は職員と歌を歌ったり、思い出話をして入浴を楽しんでいる。ゆず湯やしょうぶ湯、みかん湯で季節を感じている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを崩さないよう心がけている。昼夜逆転しないよう時間の調整支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬を把握できるよう説明書とお薬手帳は、いつでも見れるよう準備している。薬の変更時には個人記録に記載し情報共有している。また、服薬確認を必ず実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の体調を見ながら、出来る事は時間がかかっても本人にして頂き達成感を味わえるよう支援をしている。また、屋上での外気浴や日光浴・家庭菜園などで気分転換出来るよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症防止に気をつけながら外出支援をしている。屋上での外気浴や日光浴などでも行い支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は、利用者が事業所の周囲を散歩したり、屋上で体操や日光浴、野菜の水やり、洗濯物干しができるよう支援している。 ・家族と散歩に出る利用者もいる。 ・利用者は毎日、階段を昇り降りして歩行訓練を行っている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持つ事により離脱や置忘れがあるため、入居時に家族と話し合い現金は持たせないようにしている。必要時には家族と連絡を取り合い立替払いにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば職員が電話し本人に変わるようにしている。手紙の依頼は殆どない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り季節感を味わえるようにしている。雨の日以外は毎日1～2時間程度換気し温度・湿度調整をしている。また、廊下に加湿空気清浄機を3台設置している。離床出来ない利用者の居室にも加湿空気清浄機を設置している。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングには、シクラメンなど季節の花を飾っている。利用者と毎月、次の月の飾り（節分の鬼など）を作成している。 ・掃除や消毒は、職員が毎日行っている。モップ掛けや窓拭きを手伝う利用者もいる。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の居場所は確保出来ている。飲水食事時・入浴時以外は自由に過ごせるよう支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・カーテン以外は利用者が使い慣れた布団や家具などをを持ち込んで頂き環境を変えないよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコンやベッド、防災カーテン、ナースコールを備え付けている。利用者は使い慣れたタンスや冷蔵庫、テレビ、また家族の写真などを持ち込んでいる。 ・家族了解のもと、必要に応じてセンサーを設置している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床全体がバリアフリーになっている。ふらつきのある利用者には手の届く範囲で見守りし必要に応じて手引き介助している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 福寿の里グループホーム

作成日 令和8年2月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	令和7年度の推進会議が年6回中4回しか開催できていない。	令和8年度の推進会議を年6回開催する。	おおむね2か月に一回の開催だが、参加者の予定次第では毎月開催するなどの取組みを検討する。	2ヶ月
2	8	定期の職員会議などができていない。	定期的な職員会議を行う	各種委員会時に会議を行ってみる。	2ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。